

新刊案内

貸出し中の本は予約することができます。
HP・お電話でもできますので、詳しくは
カウンターまでおたずねください。

新刊コーナーにあるよ。



『歴史学のトリセツ』 小田中 直樹／著 筑摩書房 [Y201 オ]
「歴史って面白い?」という質問に「いいえ」という答えが返ってくるのはなぜか。その原因はなにか。「歴史の面白さ」を伝えようとする歴史学者の努力という視点を大切にしながら、歴史学が科学として成立し、ひとつの学問領域として制度化された19世紀から、21世紀初頭に至るまでの歴史学の歴史を概観する。

『世界を平和にする第一歩』 河出書房新社／編 河出書房新社 [Y319 セ]
平和ってなんだろう。なぜ争いは起きるんだろう。身近なところから考える。人を知り、世界を知る。それぞれが考えることから、きっと始まるはず。作家や書店員、発明家、アイドルなどさまざまな世界で活躍する30歳以下の19人が、「平和」について考えたことを綴る。おすすめの本も紹介。

『考えたことなかった』 魚住 直子／著 偕成社 [Y913 ウ]
ある日、颯太(そうた)はネコに声をかけられた。「わたしは、未来のおまえなのによー」このままだと、将来たいへんなことになるらしい。いったい、どうして? 知らないうちにさせられている競争。おばあちゃんがなんでもやってくれる祖父母の家の居心地の良さ…。ジェンダーバイアスと社会のしくみに気づいて考えはじめる男の子の物語。

【実用書】

『算数で読み解くコンピュータのしくみ』 馬場 敬信／著 技術評論社 [Y007 ハ]
『18歳成人になる前に学ぶ契約とお金の基本ルール』
消費者教育支援センター／監修 東旬報社 [Y361 ミ]

【文芸書】

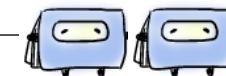
『マスク越しのおはよう』 山本 悦子／著 講談社 [Y913 ヤ]
『ルビーが詰まった脚』 ジョーン・エイキン／著 東京創元社 [Y933 エ]
『ホロヴィッツホラー』 アンソニー・ホロヴィッツ／作 講談社 [Y933 ホ]

*大竹市立図書館のホームページの中にティーンズコーナーがあります。
勉強や悩みにも役立つリンク等もあるのでのぞいてみてね。



大竹市立図書館ティーンズ便り第27号

〒739-0605 大竹市立戸1丁目6-1 ☎ 0827-52-5338



■利用案内

- ・開館時間 10:00~18:00 (火~土) / 9:00~17:00 (日)
 - ・個人貸出 図書1人10冊 (内DVD・CD資料2点)
 - ・貸出期間 2週間
 - ・休館日 月曜日 (祝日の時は翌日も)・祝日・年末年始・特別整理期間
毎月末 (ただし、土・日・月・祝の時は直前の金曜日)
- ホームページアドレス (蔵書検索もできます) <http://www.tosho.otake.hiroshima.jp/>

スマートフォンをお持ちの方は
こちらのQRコードからホーム
ページにアクセスできます。



大竹市立図書館には、ティーンズコーナーがあるのを知っていますか? ティーンズコーナーでは、ティーンズ向けの本の展示をしています。春・夏・秋・冬の年4回、入替えているのでチェックしてみてください。

☆『冬』(12・1・2月の展示)

テーマは、

ヤングケアラー

です。

子どもが子どもでいられますように……。

1冊紹介♪

『あしたへの翼』 中島 信子／著 汐文社 [913 ナ]

2020年4月、理夢(りむ)は小学6年生になった。でも、コロナで学校が休校に。勉強もできない。友達に会えない。家から出られない。そのうえ家では、寝(ね)たきりのおばあちゃんのお世話をひとりですていて…。本来大人がやるべき家事や家族のお世話をこなしている「ヤングケアラー」の少女の心を描(えが)く。



展示本リスト

* []は図書館の請求記号です。

『海を見た日』 M.G.ヘネシー/作
鈴木出版 [Y933 カ]

きっと世界は、そんなにひどいところじゃない。ロサンゼルス、それぞれの事情で養母の家に預けられた3人の里子。みんながバラバラの方向を向いていて、正面切って向き合わない。そこへ新しく自閉症の男の子が仲間入りし…。

『ヤングケアラーってなんだろう』

澁谷 智子/著 筑摩書房 [Y369 シ]

中学校の1クラスに2人はいるヤングケアラー。彼らは、家族にケアをする必要がある人がいるために、本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを行っている。実態調査や当事者が語る経験を通じて、重すぎる責任と孤独感を抱える彼らの状況や支援の取り組みを紹介する。

『あの子のことは、なにも知らない』

栗沢 まり/作 ポプラ社 [Y913 ク]

中学卒業まで2週間なのに祝賀会で使う写真を持ってこない和也。それを許せないクラスの委員長の美咲は、和也が食事もろくに食べられない貧困家庭なのを知らなくて…。迷いながらも強く生きる中学3年生の姿を鮮烈に描く。

『ウィズ・ユー』 濱野 京子/作

くもん出版 [Y913 ハ]

高校受験を控えながら、家族関係に悩み悶々と日々を送る悠人は、夜の公園でひとつ年下の少女、朱音と出会う。彼女は病気の母を支えながら家事を担う「ヤングケアラー」だった。悠人は彼女のカになりたいと思うようになるが…。

『親を頼らないで生きるヒント』

コイケ ジュンコ/著 [Y369 コ]

虐待やヤングケアラー…。救ってくれる大人と出会うために、子どもはどのようにSOSを出せばよいのか。社会的養護のもとで育った若者9人の体験を紹介し、子どもが子どもらしく安心して暮らせる道を考察する。

『レモンの図書室』

ジョー・コットリル/作 小学館

[933 コ]

母親を亡くしたカリプソは、ひとりぼっちで本の世界に入りこんでいた。ある日、本好きな転校生メイがやってきて…。本でつちかった豊かな想像力と、篤い友情を武器に困難と戦う少女の姿を描く。

『団地のコトリ』 八束 澄子/著

ポプラ社 [Y913 ヤ]

父を亡くし、母と二人暮らしをしている美月は、バレーボールに青春をかける中学3年生の女の子。ある日、階下の独居老人の部屋に女の子の気配を感じて…。居所不明児童の問題を、中学生の少女の視点から描いた作品。

『野原できみとピクニック』

濱野 京子/著 偕成社 [Y913 ハ]

裕福な家に生まれ進学校に通う優弥と、底辺校に通いつつアルバイトにいそしむ稀星。優弥はある日、からまれていたところを稀星に助けられる。二人は惹かれあっていくが…。格差社会のラブストーリー。

『空にピース』 藤岡 陽子 /著

幻冬舎 [913 フ]

立ち歩き、暴力、不登校、通じない日本語、前任者は鬱…。公立小学校教諭のひかりは、赴任先で衝撃を受ける。さらに同僚からは「この学校ではなにもしないことです」と釘をさされてしまい…。

『ドーナツの歩道橋』 升井 純子/著

ポプラ社 [Y913 マ]

家族のこと、好き？ それともきらい？ 思いは毎日くるくるまわる。好きときらいは、とっても近いところにあるんだね。新しい学校と友だち、介護が必要な家族のこと。高校1年生の麦菜の心ゆるれる毎日を見ずみずしく描く。

『紅のトキの空』 ジル・ルイス/作

フレーベル館 [933 ル]

12歳のスカーレットの願いは、母さんと弟と3人で暮らすこと。なのに母さんは入院しなくちゃいけないし、弟は児童ケアホームに入らなくちゃいけない。どうして家族が離ればなれになるの？ 健気に生きる子どもたちを描く。

他にもこんな本があります♪



* 『子ども介護者』

濱島 淑恵/著 [S369 ハ]

* 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディみかこ/著 新潮社 [376 フ]

* 『ひとりでがんばらない!』

藤田 孝典/著 クレヨンハウス [369 フ]

* 『貧困 子供のSOS』

読売新聞社会部/著 中央公論新社 [369 ヒ]

* 『私がヤングケアラーだったころ』

林 真司/著 みずのわ出版 [916 ハ]

* 『むこう岸』

安田 夏菜/著 講談社 [Y913 ヤ]

